

西南学院大学

図書館報

第28号

昭和40年9月1日発行

発行所 福岡市西新町798 電☎0031

西南学院大学図書館

発行人 山下和夫



Dante
by Amico di Sandro

作家の生誕記念

坂本重武

私は英米文学を専攻したが、学生時代から始終かわらない興味を持って愛読し研究しているのはシェイクスピアである。また、ここ10年ばかりは、ナサニエル・ホーソーンに傾倒して、ぼつぼつと書き溜めた研究論文も10篇を超えるようになった。ところが面白い事に昨1964年はこの二人の作家の記念の年に当たった。シェイクスピアは生誕400年目であった。イギリスはもちろん世界各国で記念の行事や出版が行われた。私共の図書館でもささやかながらシェイクスピア展を開催し、「館報」もその記念号として出した。ところがホーソーンは1864年に死んだのであるから、昨年は100年祭に当たるのであるが、別に大した行事も行われなかった。400年と100年という年輪の差よりも、むしろ、作家としての偉大さの相違によるものであろう。それでも、オハイオ州立大学出版部から100年祭記念全集が出版されることになった。私の手許には第1巻「緋文字」第3巻「ブライズデイル・ロマンス」の2冊がといたばかりであるが、良心的な出版のように思われる。これと関連して同じ大学から Hawthorne Centenary Essays という大冊が出版された。有名なホーソーン学者たちの論文を集めたもので、現代ホーソーン学の鳥瞰図ということができよう。巻末のライオネル・トリリングの「Our Hawthorne」は「パーティザン評論」に掲載されたものであるが大変面白い。我が国では「英語研究」がホーソーン特集号を出した位が目星しいところであった。

さて本年は、1865年に生れたキップリングとイエーツの生誕100年にあたる。キップリングはとも角、イエーツについてはすでに「学鏡」あたりで取り上げているし、たぶん、なにが催おしものがあるのではないかと思

う。それにもうひとつ、ずっとずっと偉大な作家であるが、1965年は「神曲」を書いたアリギエリ・ダンテの生誕700年にあたる。彼は1265年に生れたのであるから、シェイクスピアより3世紀前に生れたことになる。たぶん、ダンテについてはやはり記念の行事や出版があるだろうと思う。私共の図書館も多少珍しいダンテ文献を持っている。読書の秋にはその展示会を図書館で行いたいと思っている。序でながらロングフェロウは1865年に「神曲」を訳しているが、これは600年記念として出版されたものであろう。

(図書館長)

告知板

- 開館時間の一部変更 当分の間、開館時間を次のとおりとします。
通常 8.30 ~ 18.00
試験期 8.30 ~ 21.00
休期中 8.30 ~ 17.00
ついでには、きたる9月18日から始まる前期試験のために、9月10日(金)から試験終了の前日まで夜間開館を午後9時まで延長して行ないますので御利用ください。
- 夏休長期貸出図書の返却は、9月11日までに。
- ダンテ生誕700年記念の展示 ダンテに関する図書の展示を11月上旬本館で行なう予定です。百問よりは非一見を。
- 卒論特別貸出実施中 4年次生で卒業論文作成中の人には、3冊1カ月間の特別貸出が認められます。ゼミ担当教授の証明が必要です。希望者は係まで。
- 前期試験終了後の休館
10月1日(金)と2日(土)は休館しますので御承知ください。

ご存知ですか

閉架図書

Closed Books

閉架書庫の中におさめられているため、ふだん接することのできない図書のこと。目録カードで調べて請求する。

その2 - 洋書

本館では洋書は英語・英米文学および仏語・仏文学の一部を除いて、原則として閉架書庫におさめられている。その冊数は約1万7千冊であるが、ここではその中から一般的によく利用されそうな全集・叢書類を中心に、そのいくつかを紹介してみたい。まず、

キリスト教関係のものとして

The authorised version of the English Bible,
ed. by W. A. Wright, 5 vols.

The interpreter's dictionary of the Bible,
ed. by G. A. Buttrick, 4 vols.

The Moffatt New Testament commentary,
17 vols.

Luther, Martin - Works, 24 vols.

などがあり、聖書文学を学ばれる皆さんには役立つのではないかと思う。Luther の全集は全56冊の膨大なもので現在も出版が継続されている。

歴史関係のものには

Toynbee, Arnold J. - A study of history,
10 vols.

The Cambridge modern history, 13 vols.

The New Cambridge modern history, 12 vols.

(現在継続中) がある。

次に 経済・経営・商学に関するものは閉架書

庫に蔵められているもののうち相当の部分をおいておき、列挙にいとまがない。最近では安価で入手できる Reprint edition もかなりはいつている。ここでは基礎的なものとしての Seligman, E. R. A. - Encyclopedia of the social sciences, 15 vols. と最近購入した大著 Singer, C. - A history of technology, 5 vols. の2つをあげるにとどめたい。

美術書及び地図

美術書としては、先日、金山直晴先生のご寄贈による Great Pictures by great painters, 2 vols. や Famous paintings, 2 vols. のような超大型の美術本もあり、また地図には、The Times atlas of the world, 5 vols. があって、図書館で外国の地図を調べると、これが一番くわしい。

しかし、学生の皆さんに一番利用されやすいのは、やはり文学書ではないかと思う。

英米文学関係

英米文学の洋書については、全集の主なもの書庫に所蔵されており、その数も非常に多いので、ここでは最近4年間に購入されたものにつき、そのリストを掲げてみた。(それ以前のもは図書館報No.15に紹介)

Barrie, James M. - The works, 10 vols.

Cowley, Abraham - The works, 3 vols.

Daniel, Samuel - The works, 5 vols.

D'Avenant, William - The dramatic works,
5 vols.

Greene, Robert - The works, 15 vols.

Heywood, Thomas - The dramatic works,
6 vols.

Lodge, Thomas - The works, 4 vols.

Nashe, Thomas - The works, 5 vols.

Shakespeare, W. - The works (New Clarendon
Shakespeare) 18 vols.

James, Henry - The novels and tales
(New York edition), 26 vols.

Melville, Herman - The works, 16 vols.

Whitman, Walt - The collected writings, 7 vols.

ドイツ文学では

主な全集には、

Goethe, J. W. V. - Sämtliche Werke, 20 vols.

Hölderlin, Friedrich - Sämtliche Werke, 5 vols.

Kafka, Franz - Gesammelte Werke, 9 vols.

Ludwig, Otto - Werke, 3 vols.

Mann, Thomas - Gesammelte Werke, 12 vols.

Rilke, Rainer M. - Werke, 4 vols.

Schiller, Friedrich - Gesammelte Werke, 8 vols.

Storm, Theodor - Gesammelte Werke, 6 vols.

フランス文学では

Duhamel, George - Oeuvres, 29 vols.

Montesquieu - Oeuvres, 5 vols.

Rousseau, J. J. - Oeuvres, 5 vols. があり、

その他

大型本の

Dante - The vision of purgatory and paradise.
や、ギリシヤ・ローマの古典対訳双書である The
Loeb Classical Library 約400 vols. がある。

以上は書庫に所蔵されているものの、ほんの一部にすぎないが、利用希望者は著者名カードにて検索し、請求番号を明記の上、係までお申し出下さい。

卒業論文は いかに書くべきか

— 木村 毅 —

数年前図書館報に同じ題で書いたことがある。その際は主としてテクニクの面から書いたが、あとから考えてみて、その程度のことは学生も先刻ご承知で書く必要がなかったと気がついた。むしろ大切なことは書くまでの勉強の努力であり蓄積である。多くの学生の卒論はまだ本当にテーマが掴めていない。本当に自分のテーマになっていない。そうなるにはそれまでに死にもの狂いの勉強が必要なのだ。単に量の問題ではない。どれだけ真剣に真理を求めて苦闘したかということである。私自身立派な卒論が書けたわけではないが、そういう点での準備は多少できていた。自分のことをいうのはおこがましいが、私は旧制大学へ入った頃、それまでに学んだ限りでの社会科学に何か飽き足りないものを感じて、カント・ヘーゲル・新カント派・西田哲学へと触手を伸ばしていたが、それらの膨大な体系に、迷宮に入り込んだような戸惑いを感じていた。一年の夏恩師のふと漏らされた言葉に心ひかれてハイデガーの『存在と時間』を読み始

めた私は、忽ちして魅了されてしまった。スラスラと読めたわけではない。語学的にはさほどむづかしいとも思わなかったが、彼独特の表現に含まれたその思想を正確に掴むのは容易ではなく、一日中同じ頁とニラメッコをしている日が続いた。寝ても覚めても同じことばかり考えていた。歩いているとき、電車の中、床の中、それは何よりよい思考の時間であった。考えれば考えるほどこの哲学者の徹底的に客観的・即物的であろうとする科学的精神に心から共鳴せずにはいられなかった。マールブルク大学での講義のプリントも手に入り、貪るように読んだ。『カントと形而上学の問題』、『根拠の本質』等々手に入る限りの彼の著作を渉猟した。こうして私は二年の初め頃までハイデガーに心酔していた。神学という言葉にさえアナクロニズムを感じて、ゼミの先輩に食ってかかったのもこの頃であった。しかし、『存在と時間』を繰り返して読むうちに、彼の執拗なまでの客観的姿勢と自信に満ちた表現のなかに、彼の思考が出口のない袋小路に入り込んでいること、彼自身何となくそのことに気付いて焦躁に陥っているのではないかということ、この不安が却って彼を見せかけの落ち着きと威猛高な表現に駆り立てているのではないかということを感じ始めた。『存在と時間』の予告された続篇が14年経っても出ていないこと、それは彼が書かないのではなく書けな

(次頁中段へ)

西南学院大学はいわゆる文科系大学である。だから数学嫌いが多いのもある程度やむを得ない。しかし数学とは一体そんなにも難しいものなのだろうか。

数学が苦手な人は大分多いらしい。しかし、その大部分が「数学なんて俺にわかるわけがないさ」とばかり戦わずして手をあげた喰わず嫌いの数学恐怖症患者だと私は思う。つまり自己暗示でますます数学が苦手になって行くわけである。

数学は決して難しくはない。唯「難しい」という自己暗示に搏られているだけのことである。

私は数学はやさしいと思う。理路整然と構成されていて一点のあいまいな所も残してはいない。だから極端なことをいえば数学という課目は、適当な書物さえ入手出来れば、講義なんか聞かなくてもある程度までは一人でずんずん先へ進める学課目なのである。そしてどうしても一行も進まなくなったとき、始めて教師に質問し、そして行きつまったその壁を教師との共同討議によって突破したら又一人でずんずん先へ読み進んで行けばよい。現に私も学生時代はそうして勉強して来たし、私の恩師で今東京に居られるある先生も学

生の頃は代数の時間には幾何の書物を、幾何の時間には代数の書物を教室に持ち込んで講義を耳で聞きながら眼では別の数学書を読みふけて居られたということ

と聞いたことがある。そこで何れともあれ数学嫌いの人にお奨めしたいことは、どの本でもよいからとにかく一冊

の数学書を始めから終りまで一字一句余さず、計算問題も練習問題一題も欠かさず、読破して見ることである。そのためには数学の講義も含めて学校の全課目が一時お留守になっても止むを得ない。とにかくそのくらいの意気込みで数学書を一冊強行読破して見ることである。

学校の課目をお留守にするといってもせいぜい一カ月や二カ月のことであり、事実上学生諸君は試験前以外は一カ月や二カ月はふらりふらりとあてもなく過してしまっているのではないだろうか。

そこで、「それなら何を読むべきか」ということであるが、それはそれぞれに本人が本屋で立読みをしたり、図書館で調べたりして自分に良く合った数学書を自分で発見する外はない。そのためにこそ図書館はあるのである。

(文学部助教授)

— 随 想 —

数学嫌いの人に

— 宮本 堯 夫 —

—— 四部叢刊について —— 倉光卯平

今夏大学図書館必備の書として久しく待望していた四部叢刊が香港から購入された。国内では一寸手に入りにくい中々の高価な書物で、之が購入に当っては、坂本図書館長の肝入と学長の良識ある協力、そして山下司書長、杉本司書の労を感謝したい。

四部叢刊とは名の如く経・史・子・集の四部に分類され、民国19年刊のもので、323部8548巻2100冊から成る大叢書であって、旧(漢)籍の日に日に亡び湮滅していくのを憂え、最も基本となる善本を基礎として、而も総べてに亘って広く網羅された書物で、旧籍の殆どは之を抽出して見られるという頗る便利なものである。本叢書の刊行に当っては、羅振玉、鄭孝胥、孫毓修などの大学者がその労をとったもので、第一冊に「書録」を編

み、採り出しに便利となっている。

経部とは中国古典の五經(易書、礼記、春秋「杜預集解・公羊・穀梁伝」)の外、思想、道徳の規範となる原本全般(註解入)、例えば論・孟・孝經等並びに字類・韻書の「説文・広韻」等も載せられている。

史部には「竹書紀年」より始まつて「資治通鑑・戦国策」等前漢より宋に亘る歴史の書、子部には所謂孔子を幹とする儒教に入れられない諸子の学者の文集即ち「老子・荀子・孫子・墨子」等或いは「法苑珠林、南華真經」等の仏論迄網羅されて、集部には「楚辞」以来清代に亘る著名人の文集例えば孟公然、蘇東坡等のものまで刻明に編纂された貴重な文献叢書である。

(文学部教授)

(前頁より)

いのだと思うようになった(幸か不幸かこの予感は当たっていることが後年になって明らかになった)。しかし、彼の苦悶は同時に私自身の苦悶でもあった。どこからどう抜け出すべきか、暗中摸索の月日が続いた。こうして二年の秋を迎えた私は、ある日友人からはじめて聞いた滝沢克己氏(当時山口高商、現九大教授)の『西田哲学の根本問題』を通り一片の解説書のつもりで読んで見た。予想に反し最初の一頁からそれは驚きの連続であった。それは中性的なハイデガールの思考の似而非科学性を徹底的に打ち砕く鉄槌であった。余りの大きな衝撃に、それを受け入れるには暫くの時間を要した。滝沢先生のも後の著作を読み、新たな眼で西田哲学を読み返すうちに、やがてそれは私自身の思考として落ち着きを得ていた。静かな、しかし牢固たる力をもった革命が、私の心の中に広がっていった。その光は二度と失われることはなかった。卒論のテーマにハイデガーを選んだとき、私は既に当時の彼を超えていた。決して満足なものが書けたとは思わない。しかし少なくとも問題は擱んでいった。私自身のテーマであった。そして又、このテーマに関する限り指導教授にもひげをとらないという自負もっていた。

余りに多く私のことを話したことをお許し願いたい。今直ぐ卒論を書く学生には役立たないかも知れないけれども、大学に入った者は一年のときから、そういう心構えていてほしいものである。(経済学部教授)

■ 学生用ロッカーの使用開始について

学生用ロッカーを本館入口に備えつけましたのでご利用ください。受付で学生証を提出して、ロッカーの鍵と入館票を受け取り携帯品を自分でロッカーに納めて入館してください。ロッカーの鍵は入館中、各自紛失しない

よう充分注意して保管してください。また他人の迷惑にならないよう濡れた物や不潔な物はいれないようお願いいたします。

■ 図書寄贈者

- 故木村喜之助氏(木村毅教授御尊父)
英文学としての旧約聖書とアポクリファ 他 135冊
- L.G. Fielder教授 Basic French Reader 他6冊
- 金山直晴教授 Famous Paintings 他 122冊
- 古賀武夫教授 沖繩事情 他 5冊
- 山下宇一教授 日本商業史 他 1冊
- 宮本堯夫助教授 入門新しい数学 他 3冊
- 村岡俊三助教授 外国為替の歴史
- アジア財団 The Management of Bank Funds 他 6冊
- アメリカ文化センター アメリカ文学作家シリーズ 他 6冊

■ 国立学校図書専門職員採用試験のこと

さる8月10日に昭和40年度の国立学校図書専門職員採用上級試験の公告が人事院から行われた。この試験は、国立学校の図書館の将来の幹部となる専門職員を採用するための試験で、受験資格・試験の程度・採用後の待遇などは国家公務員の上級職試験と同じである。

○ 試験内容は次のとおり

- (イ) 第1次試験(甲種試験の場合) 教養試験(択一式)、専門試験第1部(択一式)、同第2部(記述式)および総合試験(記述式)
- (ロ) 第2次試験(口述試験・身体検査)

○ 受験手続

受験申込用紙は人事院福岡地方事務所へ交付される。受付期間は、昭和40年8月10日から9月30日まで。試験は10月23日から。なお詳細は就職課または図書館へお尋ねください。